

～ 発信します。利根川ダム群の水情報！ ～

令和5年3月22日

矢木沢ダム

撮影日：R5.3.6



(独)水資源機構

奈良俣ダム

撮影日：R5.3.7



(独)水資源機構

藁原ダム

撮影日：R5.3.7



国土交通省

相俣ダム

撮影日：R5.3.1



国土交通省

藤原ダム

撮影日：R5.3.3



国土交通省

草木ダム

撮影日：R5.3.13



(独)水資源機構

ハツ場ダム

撮影日：R5.3.1



国土交通省

下久保ダム

撮影日：R5.3.6



(独)水資源機構

渡良瀬貯水池

撮影日：R5.2.15



国土交通省

利根川ダム統合管理事務所では、限りある水資源を有効活用し安定した水利用を可能にするため、9つのダムを一体として運用する「統合管理」を行っております。

◇各ダムの位置図等の情報は以下のURLから確認できます◇

https://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/tonedamu_index001.html

◇現在のダム運用

- 昨年末からの降水量は、例年比で約51% (3月中旬時点)と少雨がが続いています。このため、生活に必要な水をダムから継続して補給しております。
3月に入り気温の高い日が多くなり、ダム上流の雪解けが始まってきました。これにより、河川流量やダムへの流入量が増加傾向となり貯水量が回復し始めています。
※補給とは、川の流量が少なくなった場合にダムに貯めてある水を放流して補うことです。
- 3月22日時点の利根川上流ダム群の貯水量は、約23,800万m³ (貯水率43%)と例年よりも少なくなっています。
- 今後、利根川ダム統合管理事務所では、ダム上流の積雪状況を踏まえて、主に矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、菌原ダム、八ッ場ダムの5ダムから補給を行い、下久保ダム、草木ダムからの補給は状況を見つつ行う予定です。
※相俣ダム、渡良瀬貯水池は冬季の工事等に伴い、4月中旬頃まで水位を低い状況に保っています。
- 引き続き降雨の状況、ダム貯水量を注視し、例年以上にきめ細やかなダム操作を行い、下流へ補給していく必要があります。
- しばらくは河川流量に余裕のない状況が続き皆様にはご心配をおかけしますが、引き続きご理解ご協力をお願いします。

◇奥利根・吾妻流域の積雪状況

積雪の状況は、奥利根流域（矢木沢ダム流域、奈良俣・藤原ダム流域、相俣ダム流域、菌原ダム流域）と吾妻流域（八ッ場ダム流域）で確認を行っています。（下久保ダム、草木ダム、渡良瀬貯水池の流域は積雪量が少ないため行っていません）

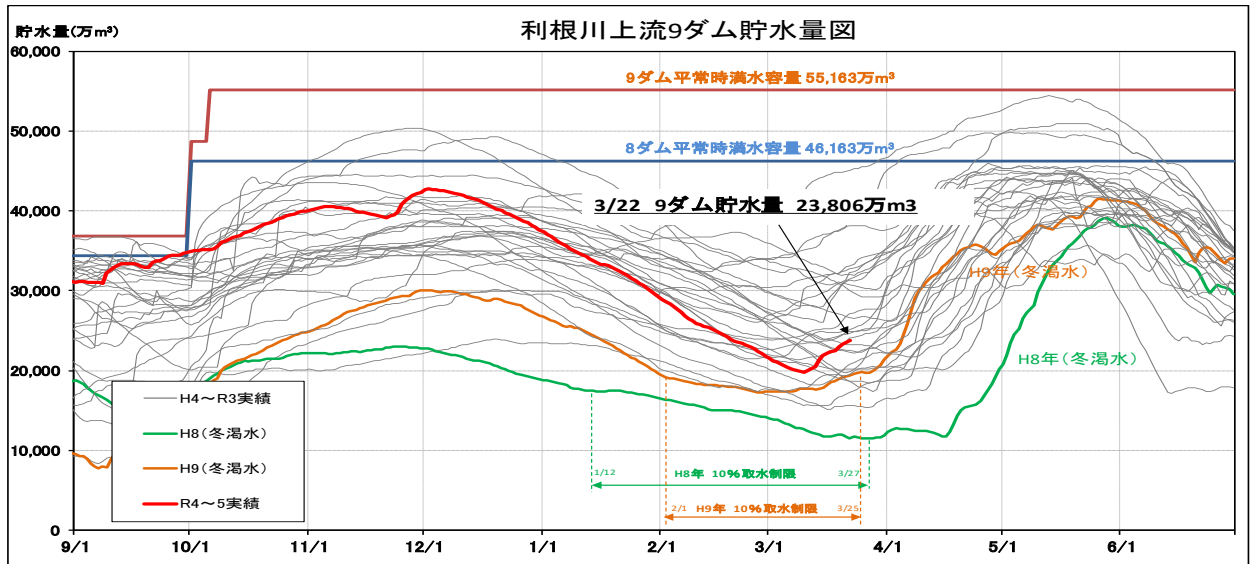
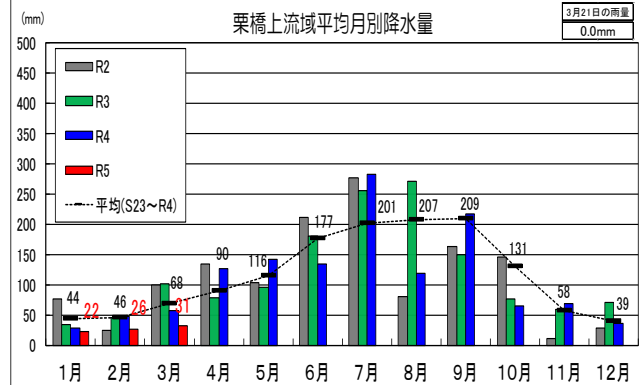
今シーズンの積雪深は、各流域とも **平均値と比べ少ない傾向**となっています。

積雪情報（矢木沢、奈良俣、藤原、菌原流域のデータ）は以下のURLから見るができます。

<利根川上流積雪状況>

<https://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/teikyo/realtime2/E015050.html>

◇栗橋上流域平均月別降水量



◇ハッ場ダムがあることで

利根川上流に位置するハッ場ダムは、令和2年3月に完成し、同年4月から管理を開始しています。

利根川上流ダム群にハッ場ダムが加わったことにより、これまでの8ダム体制から9ダム体制になりました。

このため上流ダム群の利水容量は9,000万m³増加し、トータル55,163万m³と貯められる水の量が大幅に増加しました。

しかしながら、少雨によって利根川上流ダム群の貯水量は、3月上旬には約19,800万m³まで低下しており、もしハッ場ダムが完成していなかったら、更に貯水量が少なくなっていたと想定されます。

その場合、平成9年の冬渇水と同様に取水制限を開始した可能性もあり、ハッ場ダムの効果は非常に大きなものとなっています。

今後は、これから本格的に始まる雪解けの水を貯留し、貯水量が回復していく見込みです。

ハッ場ダムは、治水だけではなく水利用にも大きく貢献しています！

